

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	音響数値解析小委員会	主 査 名：富来礼次 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：秋元孝之 主 査 名：坂本慎一
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計や音響設計の現場で数値解析技術を応用する際に必要な情報を収集し整備するとともに、新たな適用可能性への科学的展開を企図する。</li> <li>・研究を推進し成果を持ち寄り議論することで学術基盤を整備する。</li> <li>・HPの更新・整備、技術的基盤の収集・評価を行う。</li> </ul> 初年度：HPの更新・整備、技術的基盤の収集・評価。 2 年度：HPの更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。 3 年度：HPの更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。 4 年度：HPの更新・整備、技術的基盤の収集・評価、講習会等による普及・啓蒙。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：富来礼次 (大分大学) 幹事：奥園健 (神戸大学), 安田洋介 (神奈川大学) 委員：朝倉巧 (東京理科大学), 石塚崇 (清水建設技研), 井上尚久 (前橋工科大学), 大嶋拓也 (新潟大学), 岡本則子 (大分大学), 坂本慎一 (東京大学), 佐久間哲哉 (東京大学), 鈴木久晴 (エヴィクサー), 豊田政弘 (関西大学), 平川侑 (国土技術政策総合研究所), 星和磨 (日本大学), 吉田卓彌 (神戸大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s26/">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s26/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. チュートリアル「音環境の数値シミュレーション 2022」 第 1 回 波動音響解析の技法 参加者数 83 名 2. チュートリアル「音環境の数値シミュレーション 2022」 第 2 回 音環境問題への応用 参加者数 85 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 設置期間最終年度として、昨年度刊行した書籍「音環境の数値シミュレーション ―波動音響解析の技法と応用 [第二版]」に関連した 2 回のチュートリアルをオンラインで実施した。どちらも 80 名を超える参加者があり、活発な質疑応答も行われた。 2. 建築音響測定法小委員会と共同で、建築音響測定に関する数値シミュレーションと測定を実施した。

<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 上記1.のシンポジウムについて、新型コロナの感染拡大状況が収まらなかったため、オンライン開催とした。</li><li>2. 上記2.の活動についても、新型コロナの感染拡大状況のため、測定実施については慎重な計画を強いられている。</li><li>3. 室への吸音材の配置による音声伝送の変化などを解析し、可聴化など建築音響の専門家以外にわかりやすい形で提示する「シミュレーション活用データベース」について、複数の解析事例と提示方法の例が共有されているものの、具体的な公開方法について議論が深まっていない。Webによる公開を基本方針とするものの、内容や公開手順等について議論が必要である。</li></ol>
--------------------------	--

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>・室への吸音材の配置による音声伝送の変化などを解析し、可聴化など建築音響の専門家以外にわかりやすい形で提示する「シミュレーション活用データベース」について、複数の具体的な解析事例と提示方法の例も報告され、それぞれ委員会で議論が行われた。ただし、小委としての Web サイトの公開まではできなかった。</p> <p>・書籍刊行について、2011 年に出版した「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」から周辺技術の進歩や適用事例の増加に対応した第二版の刊行を 2021 年 12 月に行った。また、2022 年度に、書籍に関連したチュートリアルをオンラインで 2 回実施し、どちらも 80 名を超える参加があった。</p> <p>・建築音響測定法小委員会との共同実験を実施するとともに、共催で 2022 年 3 月にオンラインでシンポジウムを開催し、学生 12 名を含む 67 名の参加があった。また、シンポジウム以降も共同で数値シミュレーションと測定を実施している。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。